

2009 年海域管理計画定期報告書の概要

この定期報告書は、「知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画」(2007 年 12 月策定)に基づき、保護管理措置の結果など計画の進捗状況を知床世界自然遺産地域連絡会議及び知床世界自然遺産地域科学委員会に報告するとともに環境省のウェブサイトや関係施設を通じて広く公開し情報の共有を図るため、関係機関がそれぞれ取り組んでいる遺産地域の海洋生態系の保全や安定的な漁業の営みなどに係る各種措置などを取りまとめたものです。

(1) 海洋環境と低次生産

海洋環境と低次生産について、2008 年度は次のモニタリング・調査が行われました。

- オホーツク海南西海域海流観測 (第一管区海上保安本部)
- 海水観測 (第一管区海上保安本部)
- 衛星画像による海洋環境の変動の把握 (環境省)
- ブイ設置による定点観測 (環境省)
- 水中ロボットを用いた生物群集のモニタリング (環境省)
- 深層水調査 (環境省)
- 知床沿岸の浅海域生物相調査 (環境省)

知床半島周辺海域における流氷は、2009 年 2 月 4 日に半島北側に接岸し、3 月 27 日まで周辺海域で流氷が確認されています。

(2) 沿岸環境

海洋汚染に関するモニタリングは、海上保安庁により次の調査が実施され、その結果は下表のとおりとなっています。

海洋汚染調査 (海上保安庁海洋情報部)

オホーツク海域の海水調査結果 (単位: $\mu\text{g/L}$)

(単位: $\mu\text{g/L}$)

	平成 19 年(2007)			平成 10 から 18 年		
	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値
石油	<0.05	<0.05	<0.05	0.08	<0.05	0.30
カドミウム	0.023	0.019	0.029	0.029	0.004	0.065
水銀	<0.0005	<0.0005	0.0005	0.0011	<0.0005	0.0045

表出典：海上保安庁海洋情報部「海洋汚染調査報告第 35 号」

オホーツク海域の海底堆積物調査結果

(単位: $\mu\text{g/g-dry}$)

	平成 19 年(2007)		平成 10 から 18 年	
	最小値	最大値	最小値	最大値
石油	0.4	6.8	<0.1	10.0
PCB	0.0004	0.0064	0.0002	0.0078
カドミウム	0.013	0.088	0.004	0.100
水銀	0.037	0.072	0.030	0.093
銅	20	33	17	38
亜鉛	50	98	43	98
クロム	130	140	68	236
鉛	11	20	12	22

表出典：海上保安庁海洋情報部「海洋汚染調査報告第 35 号」

過去3ヵ年と比較すると、表面海水は、すべての項目とも、低い濃度レベルで推移し、海底堆積物についても、ほぼ同じレベルで推移しています。

また、遺産地域内の海域沿岸では、ボランティアなどによる清掃活動や環境省事業によるゴミの回収が行われています。

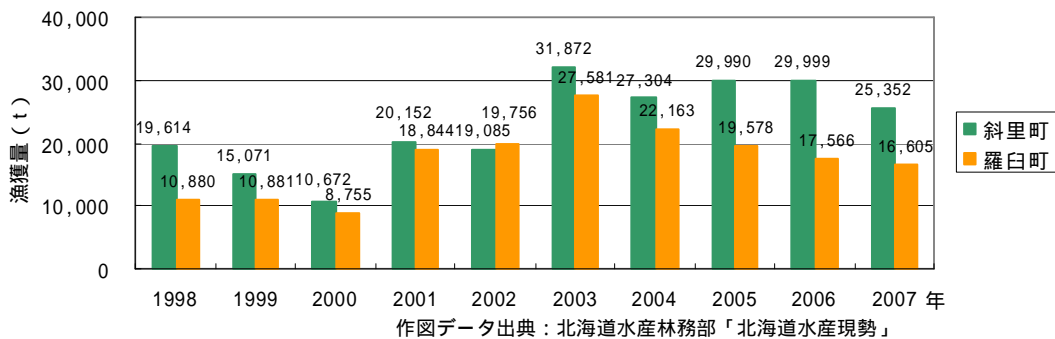
(3) 魚介類

指標種であるサケ類とスケトウダラに関して、次のモニタリング・調査が行われました。

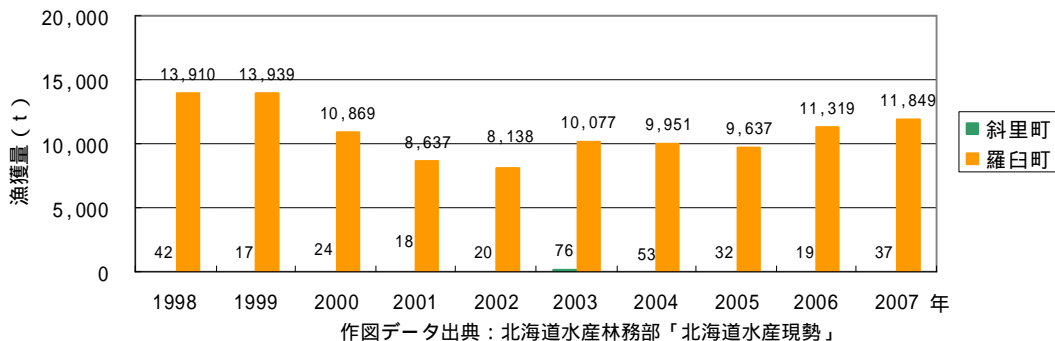
- 北海道水産現勢 (北海道)
- 河川工作物改良効果把握調査 (北海道森林管理局・北海道)
- サケ科魚類による栄養塩輸送に関する調査 (環境省)
- 我が国周辺水域の漁業資源評価 (水産庁)

1998年以降、最もサケの漁獲量が高かったのは、2003年の約59,453トンとなっています。一方、スケトウダラは、1999年の約13,956トンとなっています。(漁獲量は両町の合計量)

サケの年度別漁獲量



スケトウダラの年度別漁獲量



(4) 海棲哺乳類

指標種であるトドとアザラシに関して、次の調査が行われました。

- トド資源調査 (水産庁)
- 海棲ほ乳類生息状況調査 (北海道)

トドの資源調査は、2008年度からは「有害生物漁業被害防止総合対策事業」の下で、航空機による出現頭数調査や生態調査等を実施しています。

航空機目視調査では、北海道日本海沿岸において平成21年4月末から実施し、調査対象対

象区域全域で 65 群 105 頭を確認しました。

(5) 海鳥・海ワシ類

指標種である海鳥類（ケイマフリ、ウミウ、オオセグロカモメ）に関して、次のモニタリング・調査が行われました。海ワシ類（オオワシ、オジロワシ）については、昨年記載したデータを再掲しています。

生息地・営巣地調査（環境省）

ケイマフリの海上での分布状況は、海岸線約 100m～200mの海岸に最も多く生息していた。ウミウの 2008 年の営巣数は 628 巣で、前年からやや増加傾向にあります。前年、ヒグマが侵入して雛や卵が捕食された場所では、巣が減少しています。

2007 年ケイマフリ海上センサス結果

表 1 2008 年海上センサス結果

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
月日	5/14	5/16	5/18	6/1	6/2	6/8	6/9	6/18	6/19	6/22	6/28	
羽数	93	38	40	29	98	64	31	80	69	25	79	
	造巣期		抱卵期									
No	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
月日	7/1	7/3	7/9	7/10	7/21	7/27	7/29	7/30	7/30	7/31	8/1	
羽数	92	27	86	63	90	44	43	52	63	79	17	
			育雛期								巣立期	

表出典：環境省「平成 20 年度知床半島における海鳥生息状況と観光船による影響に関する調査」

(6) 海洋レクリエーション

観光船による海鳥への影響を評価するため、観光船の航路調査が行われました。

観光船調査（環境省）

調査したすべての小型船が、ケイマフリ営巣地である象の鼻、岩尾別川右岸断崖、五湖断崖付近において岸から 100m 以内を航行する状況が確認されています。

(7) その他

2007 年 5 月の日露外相会談において、北方四島を含む日露の隣接地域での協力に係る両国の専門家会合開催について合意され、2009 年 5 月には、「日露近接地域における生態系保全に関するプログラム」が合意されました。

まとめ

知床地域内の海域では、関係する行政機関や漁業協同組合などの関係団体及び試験研究機関等の相互の密接な連携のもと、海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業の営みを両立するための取組が行われています。今後も、引き続き調査・モニタリングの実施状況など海域管理計画の推進状況の情報公開と共有化を図ります。